



楽しく人権を学びました



だっこされて
るときは**安心**



跳び箱跳べた！
自信がもてた！



自由に好きな遊
びをしてもいい

9月9日（水）10日（木）
11日（金）の3日にわた
って、しらはたこども園で
CAP講演会が行われまし
た。1回40分で、いじめ・
誘拐・性暴力についての
プログラムです。



そんなことす
るとみんな
先生に言うよ。

8月26日（水）松尾小学校
で大人CAPのプログラムを
実施しました。子どもの立場と
大人の立場の両方を体験し、和やかな
中にも充実した時間になりました。

うん、うんと聞いて
くれると気持ち
よく話せるね。

感想から



2人組になって、小学校の時どんな
ことをして遊んだかを話しました。

- 今日はすごく勉強になりました。日頃自分の子に言っているフレーズが次から次へと出てきていてやばいな～と思ってしまいました。帰ってから見直していかないと!!と考えさせられました。
- 重いテーマでも子どもに分かりやすい言葉で教えていただけるのがいいですね。
- とても勉強になりました。日頃子供に接する態度が、もしかしたら安心、自信、自由のどれかを無意識に奪ってはいないかと、振り返るきっかけになりました。
- 今まで深く考えたことがない内容でした。今回いろいろ学んで、帰ってから子供ときちんと話をしようと思いました。また、子供への言葉がけもYouメッセージではなく、Iメッセージで伝えようと思います。子供の短所を見るのではなく、長所を伸ばしてあげようと思います。



リレーコラム 我が家の子育て

蓮沼小学校教頭 秋山てるみ



「今ごろどうしているのかしら。ちゃんと食べているのかな。」孫を心配する母の言葉を幾度きいたことか……。私には現在東京で一人暮らしをしている大学生の一人息子がいます。いつの間にか大きくなり、自分の道に向かって少しずつ歩み始めたところです。これまでの二十数年間の子育てを振り返ったとき、ただただ無我夢中だったとしか言いようがありません。

息子は、夫や私の両親はもちろん、周囲の多くの方々からの祝福を受け、誕生しました。新米ママとなった私が、両親の助言にも耳を貸さず、育児に関する本や雑誌を手に、さまざまな知識と情報に翻弄されながら奮闘する姿は、今思えばこっけいです。マニュアルどおりにと、一喜一憂しながら肩に力が入った子育てには余裕がなく、そのストレスを夫や両親にあたってしまうといった状況でした。

しかし、一歳の誕生日を待たずして仕事に復帰した私は、ようやく気づいたので。子育てはマニュアルどおりにいかになくて当たり前、マニュアルにしばられるのではなく、肩の力を抜いて目の前の子どもと向き合うことが大切だということ。

そうして家族の協力のもと、何とか仕事と子育てを両立させていた矢先、家族を揺るがす出来事が起きたのです。それは夫の病です。あまりにも突然で、現実を受け入れることができませんでした。ひたすらに夫の回復を信じていた私でしたが、どうしても心が折れそうになるところがあります。そんなときは、私がかくじけるわけにはいかない、家族を守らなければ、と心を奮い立たせながらの日々でした。仕事と夫の看護で息子との時間はいっそう少なくなりました。大切なのは時間ではない、と自分に言い聞かせ、寝る前のひとときの読み聞かせだけが毎日の日課となりました。夫の入退院は二年近くにも及びましたが、体調

のよいときには、ドライブや旅行、デイズニーランドや公園に行くなど、家族との時間をもつことができました。しかし病魔は確実に夫の体を蝕み続け、夫は他界しました。そのとき息子は二歳半でした。

私を絶望のどん底から救ってくれたのは、息子の無邪気な姿でした。それからは最愛の息子を残してこの世を去らなければならなかった夫の無念を思ったら、悲しんでばかりいられない、前を向いて歩いて行かなければ！と自分を鼓舞しながらの毎日でした。心がけたことは、笑顔で毎日元気に息子と向き合うこと、しっかりと話を聞くこと、親子であってもお互い「ありがとう」と「ごめんさい」を素直に伝えあうことです。もちろん苦しいこともたくさんありました。忙しさのあまり感情にまかせて声を荒げてしまうこともしばしば。いつしか「早くしなさい、早く」「あとでね」が口癖になっていました。難しい年頃にさしかかったときには、こんなとき父親がいればと悩んだこともあります。部活、部活で会話が減ったときに思いついたのは、『お弁当作戦』でした。心をつかむためにはまず胃袋から！冷凍食品には頼らず、毎日必ず手作りです。そして空になった弁当箱を見てガッツポーズ！こんな小さなことで乗り越えました。「案ずるより産むが易し」という言葉もあるとおり、何とかなるものです。

本当に子育ては不安や悩みがいっぱいですが、必ず周囲の人々は力を貸してくれます。私も周りの人たちにどれだけ助けられたかしれません。昼間面倒をみてくれた両親、息子の同級生のお父さんやお母さん、職場の同僚、近所の方々……。今、心から感謝しています。胸を張って自慢できるような子育てができたとは言えず、遠くの夫も苦笑いしているかもしれない。でも、必死で自分なりに精一杯の愛情を注ぎ、息子と向き合ってきた時間は、私の宝物です。

まだまだ心配の種が尽きない息子ですが、信じて見守っていこうと思います。



子育て相談受付中

子育ての悩みやお子さんの心配ごと、気になることの相談をお受けいたします。一人で抱えこまず、まずはお電話ください。

相談電話番号 0475-80-1456

受付日及び時間 月・火・水・木 9:00~14:30

(木曜日の午後と祝祭日は除く)